

# 盗聴調査から盗聴点検に

～盗聴調査に興味のない法人様向け～

「日本では年間10万個の盗聴器が販売されている」とよく言われていますが、実際のところ、これでは日本中いたる所に盗聴器があるかようになってしまいます。

しかし、弊社が法人を点検してみてもせいぜい年に1～2個がいいところで、全く無い年も結構ございます。皆さんの会社でも「盗聴」なんて全く気にされていないのではないでしょうか。

弊社が20年以上前に欧米では当たり前前に実施されている法人に限定した盗聴点検サービスを開始した当初は、社内で何かおかしいことが起こり、「もしかしたら盗聴されているのかも」というまず初めに事象ありきのケースがほとんどでした。その当時は「盗聴点検」ではなく「盗聴調査」でした。

そして、現在、弊社の顧客には一部上場企業様がいくつもあり、そのほとんど全てが盗聴点検を実施されています。つまり、安全確認です。ようやく日本も欧米と同じ意識になってきたと実感しております。もちろん今でも事象ありきでご依頼いただくケースもございますが。

法人のセキュリティというとネットワークセキュリティ、入退室管理、防犯カメラ監視などを思い浮かべるのではないかと思います。これらは企業にとって非常に重要であることは間違いありません。しかも、比較的目に見える、担当者からすると「やっている感のある」ものであるため導入しやすく、提供している業者も多数存在しています。これらに加えて欧米企業、弊社顧客企業で実施しているのが盗聴点検です。

先程、年間の発見数が多くて1～2個といいましたが、実はこの1～2個が重要で実際に見つかった場合、企業内は大騒ぎになります。「誰がいつ設置したのか」、「目的は何か」、「どのような情報が漏れたのか」など疑心暗鬼になり、ほとんどパニック状態になります。その際ほとんどの担当者が口にするのは「まさかうちの会社が...」です。

盗聴点検を実施されている弊社顧客の場合には、少なくとも「いつ」はほとんど解明できます。そのため、「誰が」や漏れたかもしれない情報についてもある程度は推測できるようです。恐らくなんらかの兆候があったのではと推察します。そして、その後の対応もご相談していただけます。

欧米では盗聴への対応をどのように実施しているかといいますと、世界的な企業の場合、社内に専門のチーム（Sweeping Team）を持ち、HQや在外支店などを定期的に回って点検を行っています。また、重要な場所には不審な電波の発信を自動的に検知する装置を天井に設置し、目に見えない電波を常時監視しています。（これは国内の企業でも実施されているところはあります）しかも社員が出張する際には、簡易型の発見器を持参し、宿泊先で点検したり、場合によっては暗号電話機を持参したりしています。また、世界的に有名な保険会社などは、専門業者と契約し、定期的に世界中で盗聴点検を実施しています。これは事実です。しかも最近始まったものではなく20年以上前から確認できている内容です。

国内に目を向けてみますと、何かおかしいことが起こってからの盗聴調査の時代が長らく続いておりましたがここ5年くらい前から盗聴点検を実施される企業が増えてきました。定期的に点検することにより安心を手に入れるという考え方が浸透してきたように思えます。また、取引先の条件に定期的な盗聴点検を求める企業も出てきました。つまり、自分たちは情報漏洩防止を実施しているが、情報の提供先から漏れては困るということです。

盗聴点検は社内の一部の関係者しかその存在を知りません。例えば、総務部、社長室などです。ですから一般の社員の方はご存じありません。また、対外的にも実施を秘匿される内容ですので、どこの会社が実施しているかも分かりません。もちろん弊社も機密保持契約を締結していますので、ご説明の際に具体的な企業名を出すことはありません。ただ、盗聴点検を実施し安心安全を担保されている企業様は確実に増えてきています。

弊社へのご依頼はほとんどがご紹介から始まります。その理由として、お互いの信頼が重要だからです。見知らぬ人間が社内に入り、逆に盗聴器を仕掛けられる危険性、外部に何か漏洩される危険性など信頼関係がなければ当然依頼には躊躇してしまいます。弊社としても、点検結果への疑念や上記のご不安がある中での実施は無意味と考えます。ですから必然的にご紹介による実施となります。

弊社のご提案する方法は、

- ・日常的な点検は弊社がやり方を社員の方にお教えし実施していただく。
- ・年1回の本格的な点検を弊社が担当させていただきます。

この2本の柱で実施していただいております。

盗聴器はいつ仕掛けられるか分かりません。ですから少なくとも秋葉原で販売されている程度の誰でも簡単に入手でき仕掛けられる市販品は日常的に社員の方が点検するほうが良いと考えます。これだけで盗聴のリスクは相当減ると思います。企業様によってはこれだけで良い場合もあります。

次に年1回弊社がEUの情報機関で使用されているのと同等の機材を使用しての点検を実施します。これは産業スパイや各国情報機関のターゲットになる可能性のある企業様で実施していただいております。本当は3か月や半年に1回実施されると尚良いのですが、ご予算の関係と安全確認という意味合いから今のところ年1回の実施がほとんどです。

点検終了時にはご担当者様から、「今年も何もなくて安心しました」とのお言葉をいただいております。

最後に、皆さんの会社は何か事象がおこってから慌てて実施する「盗聴調査」とネットワークセキュリティや入室管理、防犯カメラなどと同様に常日頃から備え、安心を手に入れる「盗聴点検」、どちらを選択されますか？ それとも何もせず知らないうちに多大な損害を被ることを甘んじて受けますか？

## 株式会社メルク

東京都新宿区西新宿6-10-1 日土地西新宿ビル8F  
TEL: 03-5288-5173 FAX: 03-5288-5174  
ホームページ [www.melc.co.jp](http://www.melc.co.jp) Eメール [csc@melc.co.jp](mailto:csc@melc.co.jp)

